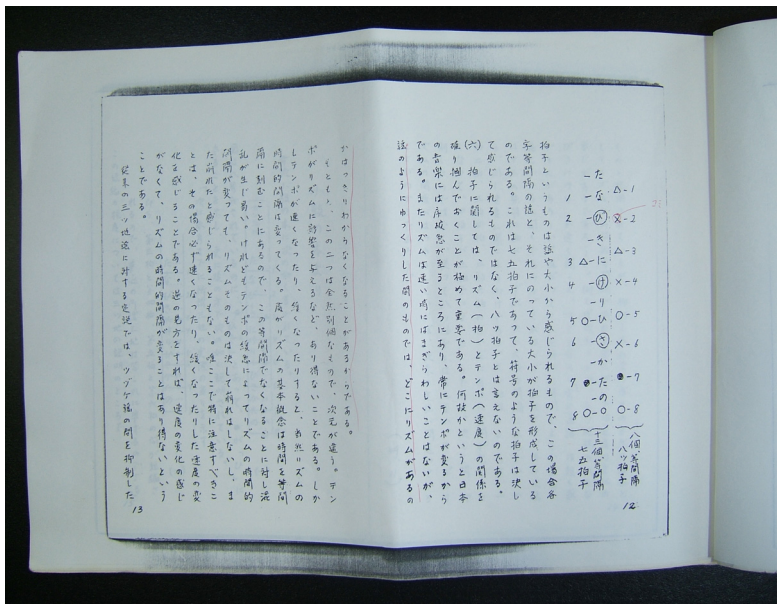
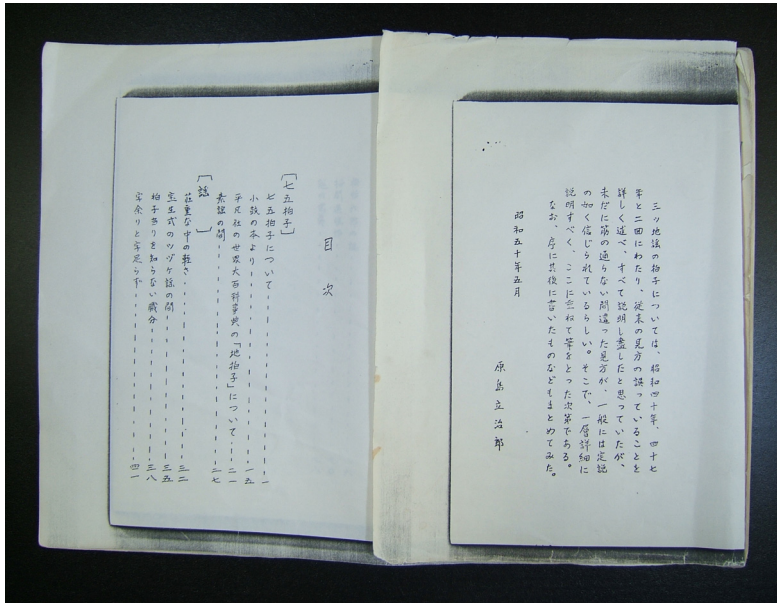


# 原島立治郎 『続七五拍子』

謡の実際から、謡が八拍子に基づいていることを聞き取ることが不可能であろう。その実感からして、謡が八拍子に基づくとする説明、また、三地謡が八拍子の特殊な扱い方であるとする説明も、あやまつたものでしかない。謡においては、七五調のテキストが生み出すシラビツクな音の進行こそが、規範となる。その音響の実感に即して、八拍子にかわる基本として「七五拍子」を基本として提唱する。謡を歌う実態に立脚し、その立場を言語化している点で貴重な言説であると言えよう。



標題 内題：―

標題紙：―

奥附：―

その他：―

著者 奥附：―

その他の場所：―

出版 版次：―

出版地：―

出版社：―

出版年：昭和50 (1975)

その他の場所：―

形態 冊数：― 頁数：―

寸法：―

状態 写本版本の別：― 現物複写の別：複写

備考 武蔵野大学所蔵の本を部分的に複写した

もの。